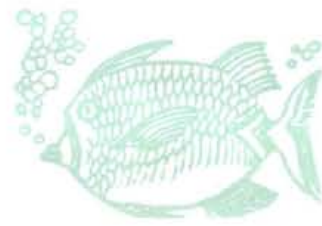


モックン・カズローの

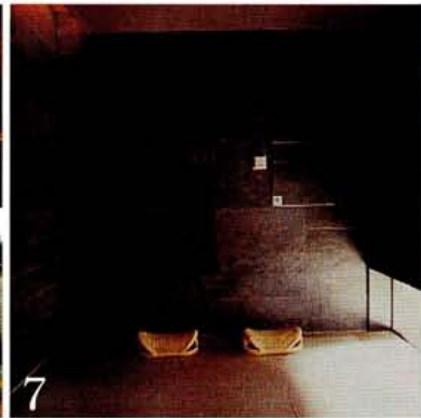
京潮の香り

京のラグジュアリー市場と
その向う側の利用者

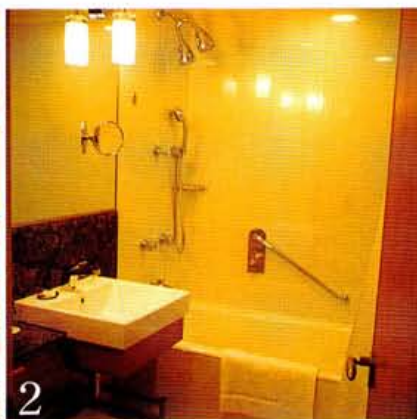


少子化の煽りか、市内の修学旅行対応の旅館が近年相次いで廃業するのを目の当たりにした。一方では、外資が勢力的に街中のシティホテルにテコ入れ、あるいは新規参入するシーンも目立ち、また他都市の外食産業らが隙間の保養所跡や旅館をオーベルジュに用途変換させては、「京都」を売り物にするといった宿泊施設も台頭し始めた。その動きは、目下のところ、年間4800万人の観光客の選択肢や受け皿を広げたものの、バジェットで連中におもねる施設が多いせいか、真の「心地よい身の置き場所」を指し示すには至っていない。

そんな中、この春「ウエスティン都ホテル京都」がリニューアル5周年目を記念に、独自に開発したヘブリーベッドに加え、ヘブリーバスを184室に完備させ、およそ500室ものリノベーションを完了させた。ゲストの高級マイ箸がキープできるといった、話題の会員制「チヨップ・スティック・クラブ」を整えた中国料理「四川」を新顔に、他レストラン2施設を模様替え、ハード・ソフト共の新たなウエディングサービス提案



湯の花温泉 すみや亀峰菴 京都府亀岡市湯の花温泉 TEL0771・22・0394 <http://www.sumiya.ne.jp>



ウェスティン都ホテル京都 京都市東山区三条路上 TEL.075・771-7111 <http://www.westinmiyako-kyoto.com>

も加えつつ、顧客満足優先のサービスを充実させたのである。またほぼ同時期「グランドプリンスホテル京都」も全館約300室のリニューアルを告げる。ロイヤルフロアと称した8階の最上階には、フロア宿泊客専用サロンを整えるなどして、スイートを含むツイン・ダブル43室の洗練度を高めている。

一方、亀岡は湯の花温泉の雄「すみや亀峰庵」も昨年の11月、ファサードやオーブンキッチン・ダイニング、レセプションを兼ね備えたライブラリー、極めつけはジャグジーに岩盤浴といった豪華施設を備えた洋室を鳴り物入りで、5室の特別ルームを再構成、府下では考えられない約3億5千万円もの資本を投下して大刷新を図っている。街なかの老舗旅館「椋家旅館」「俵屋」が昨年辺りから改装に本腰を入れ、この町の旅館の在り方を再考する最中の主張だった。

この夏、市内には世界の建築家やクリエイターたちがそれぞれの部屋に違ったデザインを施すという、本格的デザインナイズ・ホテルが産声を上げると聞く。時代は東京ミッドタウンの「ザ・リッツカールトン東京」の提案に代表されるように、アップバーエコノミーからよりラグジュアリーな市場へと突入している。がしかし、この町においては、決していたずらに成金セレブ市場や団塊世代市場を見込むものではないと信じていたい。長い間、「京都」という本物を見つめてきた人々の審美眼が働けばこそ「心地よい自分の居場所」はおのずと解かるはずである。日帰りを含む入浴観光客が、オリエンテering型「神社・仏閣巡り」に少しでも早く疑問に感じてくれたなら、これらの寛ぎの扉は容易に開けてもらえるのだが…。

①全室に配したオリジナル寝具「ヘブンリーベッド」は、人の体にちょうどいい高さや堅さ、広さを追究・実現、「Simmons社」製の独立した900のコイルが箱の上で眠っているような快適な眠りを約束してくれる。もちろん毛布、掛け布団、枕は羽毛仕様。②③ヘブンリーバスの最大の特徴は「スピークマン社」製の2つのヘッドシャワー。広範囲に広がる心地よい水圧でスパセラピー的シャワーが体験でき、ミストのような柔らかな水圧からマッサージのような強い水圧までが楽しめる。④開放的かつ洗練された店内には幅2mを超える水槽が配され、魚港直送の魚介類が日々用意される。香港のレイクームンよろしく清蒸魚(チェンツィンユ)などを注文するのもいいが、やはりステイタスは「チョップスティック・クラブ」。螺鈿や漆塗りの豪華な箸箱に自分でチョイスした箸がキープでき、会員はフカひれや伊勢海老、ボトルワインなどのキューボン特典が得られる。これで年会費18888円はお値打ちだ。⑤昨11月に完成を見せた「すみや亀峰庵」の最新高機能・洋室「清遊」の半露天系ジャグジーと岩盤浴室は旅館の粋を超える、ハイレイフスタイル提案。液晶大画面ビジョンとサラウンドでくつろげるリビングはまさに「住まう」の空間だ。半露天風呂を配した他6ルームのラグジュアリー部屋すべてをリビート体験したい。⑥ファサードの版築土塙、ダイニング「旬膳 瑞禾」のおくどさんは昔ながらの匠技を今に見せてくれる。⑦八坂神社横は、際コーポレーションの「柚子屋旅館」をはじめ「本家さぬきや」資本の高台寺「よ志のや」と京スタイルを売りにした旅館型オーベルジュも台頭。



椋家旅館 京都市中京区駄屋町姉小路上ル中山町 TEL.075-221-1136 <http://www.hiragiya.co.jp/>

モックン・カズロー ●京都生まれの京都育ち、生家は染屋という生粋の京都人。現在の「京都CF1」の根幹に携わった前編編集長。現在は「京都CF1」のご意見番を務める傍ら、広告企画制作から同志社大学のプロジェクト講師まで、ジャンルの垣根を越えて京都にまつわる仕事に従事する。趣味のサーフィンより、街場の小波に乗るのが上手いともっぱらの評判である。